

第6学年2組 社会科学学習指導案

授業日 平成27年5月18日(月) 5校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 大矢 和憲

会場 6年2組教室

1 単元名 「大陸に学んだ国づくり～飛鳥・奈良時代～」

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領6学年の内容(1)のイに準拠して設定したものである。

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。
イ 大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子、貴族の生活について調べ、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本風の文化が起こったことが分かること。

本単元では、大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の三つの歴史的な事象(以下:事象)を取り上げて、聖徳太子の政治や大化の改新によって政治の仕組みが整えられ、大仏が造営されたころに天皇を中心とした政治が確立されたことを学習する。貴族の生活を取り上げ、大陸文化とは趣の異なる国風文化が起こったことについては、次の単元で学習する。

この時代の我が国の国づくりには、当時の中国(隋・唐)が大きくかかわっている。当時中国を統一した隋や唐は強大な帝国であり、周辺の国々は服属するか滅ぼされるかという状況にあった。このような緊迫した国際情勢の中、我が国は豪族同士の争いや政治腐敗といった国内の状況を打破し、政治の安定と国力の強化を進める必要があった。そこで仏教を中心とした文化や進んだ技術、政治の仕組みなどを隋や唐、百済から取り入れ、天皇を中心とした国家体制を整えようとしたのである。

また、遣隋使や遣唐使による交流により、文化などを摂取するだけでなく、隋や唐と一国家としてのかかわりを築いたことも大きい。こうして我が国は、急速に天皇を中心とした中央集権国家、律令国家として発展し、聖武天皇の時代には、律令制度と国分寺や大仏の造営によって、天皇の力が全国に及ぶまでになったのである。

このように、この時代の我が国の国づくりを学ぶとき、当時の国内の状況と中国の状況とを関係付けて学ぶことで、事象の意味や価値をより感じることが出来る。この時代に「なぜ大陸文化を摂取しようとしたのか」「なぜ天皇を中心とした国家体制が確立されたのか」その意味(目的)を、より広い視野からとらえることができる単元である。

3 本単元で目指す姿と「中核的な学習内容」「学びをつなぐ力」

(1) 目指す姿

国内の状況と中国(隋や唐)の状況を関係付けて天皇を中心とした国づくりをしたことの意味をとらえる子ども

「豪族が争ったり、自分勝手に政治をしたりしていたら、国が弱くなって隋や唐に攻め滅ぼされるかもしれない。だから隋や唐に学んで天皇を中心とした強い国をつくらうとしたんだ」などと考える姿。また、複数の事実を比較・関係付け・総合して見たり考えたりしたことを自覚する姿

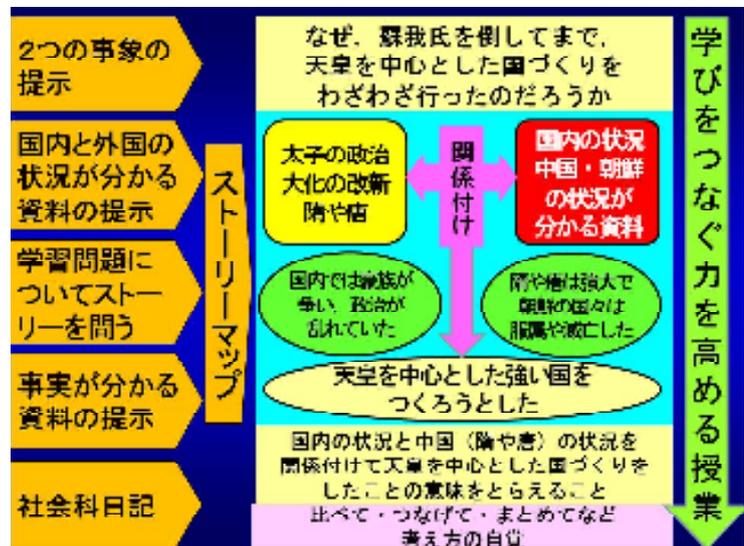
(2) 「中核的な学習内容」

国内の状況と中国(隋や唐)の状況を関係付けて天皇を中心とした国づくりをしたことの意味をとらえること

(3) 「学びをつなぐ力」

① 比較するすべを用いて、2つの事象の共通点や相違点(変化)に気付き、驚きや疑問を見いだす力

② 関係付けるすべを用いて、これまでの学習で得た知識(既有事項)を想起しながら、学習問題の解決につながる情報(状況や立場、事実など)を見いだす力



③ 関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる複数の情報を結び付け、事象の意味（課題解決に必要な情報）を考える力

4 指導計画 全10時間 (30Q)
単元カード参照

5 指導の構想

子どもは、これまでの学習において、聖徳太子の政治（仏教の導入、冠位十二階・十七条の憲法の制定、遣隋使の派遣※蘇我馬子と協同で行った）について、それぞれの用語や事実を学習している。また、この当時の中国（隋・唐）の存在を知っている（既有事項）。しかし、天皇を中心とした国づくりをしようとした目的については考えていない（C0）。このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1
聖徳太子による国づくりと大化の改新による国づくりを提示し、気付いたこと、疑問に思うこと、これからみんなで考えたいことを問う。

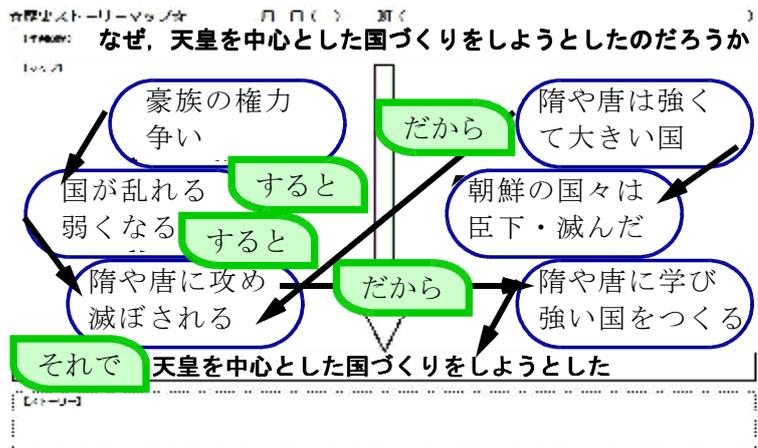
天皇を中心とした国づくりの意味（目的）について考えさせていくために、まず、聖徳太子による国づくりを整理した表（資料①）を提示し、マスキングを外しながら天皇を中心とした国づくりをしようとしたことを押さえる。次に、乙巳の変の絵と大化の改新による国づくりを整理した表（資料②）を提示し、マスキングを外しながら、大化の改新の事実（中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我氏を倒したこと・税制度を含む政治改革を進めたこと・天皇を中心とした国づくりをしようとしたこと）を押さえ、気付いたことを問う。子どもは、**比較するすべ**を用いて、2つの事象の共通点として、どちらも天皇を中心とした国づくりをしようとしたことに気付く。次に、子どもに、疑問に思うことを問う。子どもは、「なぜ蘇我氏を倒したのか」「なぜ、天皇を中心とした国づくりをしようとしたのか」などと疑問を發表する。その後、これからみんなで考えたいことを問う。子どもは、**比較するすべ**や**関係付けるすべ**を用いて疑問を焦点化し、「なぜ、蘇我氏を倒してまで、天皇を中心とした国づくりをわざわざ行ったのだろうか」と、天皇を中心とした国づくりをしたことの意味（目的）を追究する学習問題を設定する。その後、学習問題についての予想を發表させ、ワークシートに自分の初発の考えを記述させる。この場面で、学習問題に納得し、学習問題に正対する初発の自分の考えを記述できた子どもを問いをもった姿とする。

働き掛け2
当時の国内の状況と中国・朝鮮の状況が分かる資料を提示し、分かったことや考えたことを付箋紙に書かせる。

根拠となる事実を明らかにして考えさせるために、「どのようなことが分かれば考えられそうか」と問う。子どもは、学習問題を解決するためには2つの事象に関する要因や成果が分かれば考えられそうだと考え、それらが分かる資料を求める。そのような子どもに、当時の**国内の状況と中国・朝鮮の状況が分かる資料（「対象」※資料③）**を提示し、資料から分かったことや考えたことを付箋紙に書かせる（個人）。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、これまでの学習で得た知識（既有事項）を想起しながら、学習問題の解決につながる国内の状況と中国・朝鮮の状況（情報）を見いだしていく。

働き掛け3
小グループにストーリーマップを配付し、学習問題についてのストーリーを問う。

複数の事実を関係付けて事象の意味を考えることができるようにするために、まず、小グループにストーリーマップ（思考の可視化と自覚化を促すための補助教材）を配付し、学習問題についてのストーリーを問う。ストーリーを問うことで、子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、付箋紙に書いた情報を似ているもので整理したり、時系列や因果関係、相互関係といった見方で結び付けたりする。また、ストーリーマップには、結末として「天皇を中心とした国づくり



くりをしようとした」と示しておく。子どもは、学習問題の解決につながる当時の国内の状況と、中国（隋や唐）・朝鮮の状況を結び付け、ストーリーを考える。

次に、学習問題の結論を問い、学級全体で話し合わせる。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、それぞれのグループで話し合ったストーリーを基に、補ったり、妥当かどうか判断したりしながら、「豪族が争ったり、自分勝手に政治をしたりしていたら、国が弱くなって隋や唐に攻め滅ぼされるかもしれない。だから隋や唐に学んで天皇を中心とした強い国をつくらうとしたのではないか」などと、天皇を中心とした国づくりをしようとした意味（課題解決に必要な情報）を考える。しかし、子どもはあくまでも自分たちの考えであるため、本当かどうかを確かめたくなる。

働き掛け 4

事実が分かる資料を提示し、学習のまとめを記述させる。

子どもが考えた結論の妥当性を確かめさせるために、事実が分かる資料④を提示する。子どもは、資料を調べ、自分たちが考えた結論の妥当性を確かめる。その後、学習問題について分かったこと・考えたこと・思ったことをワークシートに記述させる。子どもは**関係付けるすべ**を用いて、自分たちが考えた結論と資料から分かった事実とを再構成し、「豪族が争ったり、自分勝手に政治をしたりしていたら、国が弱くなって隋や唐に攻め滅ぼされるかもしれない。だから隋や唐に学んで天皇を中心とした強い国をつくらうとしたんだ」などと考え、**国内の状況と中国（隋や唐）の状況を関係付けて天皇を中心とした国づくりをしたことの意味をとらえる子ども（Cn）**になる。

働き掛け 5

2つのふり返りの観点を示し、「スーパー社会科日記」を書かせる。

子どもは一連の学習過程において思考しているが、無自覚であることが多い。そこで自分の思考を自覚させるために、日常的に「スーパー社会科日記」（宿題）を書かせていく。ここでは、①「どのよう何を学んだのか」自分の学習過程と、②考え方のコツを書くように指導する。子どもは、本時の学習を振り返り、自分がどのように考えてどのようなことが分かったのかを説明する。こうして子どもは、思考としての社会的な見方や考え方（比較・関係付け・総合して考える、多面的・多角的、時間的・空間的に見たり考えたりするなど）を自覚し、以降の学習においても学び方や考え方を活用して学習していくようになる。

6 本時の構想（本時 6/10時間）

(1) ねらい

比較するすべや関係付けるすべを用いて、当時の国内の状況と中国（隋や唐）の状況を関係付けて天皇を中心とした国づくりをしようとしたことの意味をとらえることができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに（C0）

- 聖徳太子が法隆寺を建てたこと、仏教の教えを基に、冠位十二階や十七条の憲法を制定したこと、冠位十二階と十七条の憲法の憲法の内容を知っている。※蘇我馬子と協同で行ったことも知っている。
- 小野妹子をはじめ、遣隋使が果たした役割を知っている。
- この当時の中国（隋・唐）の存在を知っている。
- 天皇を中心とした国づくりをしようとした目的については考えていない。

このように働き掛けると【働き掛け 1】

- 説明「これまで、聖徳太子と蘇我馬子の政治について学習してきましたね。少しおさらいしてみましょう」※以下：聖徳太子のみ表記
 - ※ 聖徳太子による国づくりを整理した表（資料①）を提示し、したこと・どのような国づくりをしようとしたかを問い、マスキングを外していく。（答えさせる内容にマスキングをしておく）。
- ・ 説明「こうして聖徳太子は、天皇を中心とした国づくりをしようしました」
- 説明「実は、聖徳太子が無くなった後、このような出来事が起こりました」
 - ※ 乙巳の変の絵を大型テレビに提示する。
- ・ 説明「今日登場するのはこの2人、中大兄皇子さんと中臣鎌足さんです」
 - ※ 大化の改新による国づくりを整理した表（資料②）を、聖徳太子による国づくりを整理した表（資料①）に並べて提示する。
- ・ 説明「2人は、この絵のように蘇我馬子の孫の蘇我入鹿を殺して、蘇我氏を倒しました。そして、このような政治改革を進めました」
 - ※ 税制度を含む政治改革の内容を大型テレビに提示し、一つ一つの内容を説明する。

- ・説明「こうして中大兄皇子と中臣鎌足は、このような国づくりをしようと思いました。これらをまとめて大化の改新と言います」
- ※ 大化の改新による国づくりを整理した表（資料②）の最後のマスキングを外す。
- 発問「この2つの表を見て、気付いたことはありませんか。発表しましょう」
- ・発問「ではこの2つの表を見て、疑問に思うことはありませんか。発表しましょう」
- ※ 子どもの疑問を黒板に書く。
- ※ 補助発問：「どうしてそう思ったの」
- ・発問「いろいろな疑問があるけれど、みんなはこれからどんなことを考えたいですか。どんな学習問題ができそうですか」「これからみんなで考える学習問題はこれでいいですか」
- ※ 学習問題に納得できるか挙手させる。
- ※ 学習問題を黒板に書き、ワークシートを配付する。
- 指示「みんなの学習問題を書きましょう」
- ・発問「どんな予想ができるかな」※自由に話させる。
- ・指示「今の自分の考えを、ワークシートの自分の考え①に書きましょう」

このようになり (G1)

- 聖徳太子の政治について知っていることを発表する。
 - ・聖徳太子は冠位十二階や十七条の憲法をつくった。遣隋使を送った。仏教を政治に取り入れた
 - ・天皇を中心とした国づくりをしようとしたんだ。
 - 中大兄皇子と中臣鎌足が進めた大化の改新の事実を知る。
 - ・うわっ！誰かが殺されてる。ひどい。残酷。なんで？。誰が殺されているの？
 - ・中大兄皇子と中臣鎌足が蘇我入鹿を殺したんだよ。
 - ・蘇我馬子の孫なのに、なんで殺したんだろう。
 - ・すべての土地や人を朝廷のものにしたんだ。
 - ・朝廷って結構ひどくない？農民とかは大変だよ。
 - ・なんで都か北九州の守りについたらのかな。
 - ・天皇を中心とした国づくりか。なんでここまでするのかな。
 - 2つの表を見て、気付いたことや疑問に思ったことを発表する。
 - ・聖徳太子と蘇我馬子のときも、大化の改新のときも、どちらも天皇を中心とした国づくりをしようとしたことが同じだ。
 - ・なんで蘇我氏を倒したのか。
 - ・なんでどちらも天皇を中心とした国づくりをしようとしたのか。
 - ・なんでもう1回新しい天皇を中心とした国づくりを行ったのか。
 - ◎なぜ、蘇我氏を倒してまで、天皇を中心とした国づくりをわざわざ行ったのだろうか。
(学習問題)
 - 学習問題について予想し、初発の考えをワークシートに記述する。
 - ・きっと豪族が争ってばかりで仕方なかったからじゃないかな。
 - ・豪族が権力をもっていて、天皇の力が弱かったからじゃないかな。
 - ・国を強くしようとしたからじゃないかな。
 - ・隋とか唐とかのように強い国になるためじゃないかな。
 - ・もしかして隋とか唐に勝とうとしていたのかな。
- ☆つなぐ力①：比較するすべを用いて、2つの事象の共通点や相違点（変化）に気付き、驚きや疑問を見いだす力

このように働き掛けると【働き掛け2】

- 発問「みんなは今、どのようなことが分かれば詳しく考えられそうですか。どんな資料があるといいですか」
- ・説明「なるほど。なぜ天皇を中心とした国を目指したわけやその成果が分かるような資料がほしいんだね」
- ・指示「そう言うと思って、今日はこういう資料をもってきました。資料を調べて分かったことや考えたことを付箋紙に書きましょう」
- ※ 国内の状況と中国・朝鮮の状況が分かる資料（「対象」：資料③）、付箋紙を配付する。
- ※ 付箋紙には一枚につき一つのことだけを書くように指示する。
- ※ 書いた付箋紙は、分かった資料の場所に貼るように指示する。

このようになり (G2)

- 資料を調べ、学習問題の解決につながる要因や成果（情報）を見いだしていく。
 - ・ やっぱり豪族の権力争いがあったんだ。
 - ・ 豪族が争ったり権力をもったりして天皇の力が弱くなった。
 - ・ 隋も唐もすごく大きくて強い国だった。
 - ・ 朝鮮の国々は隋の臣下という関係だったんだ。
 - ・ 高句麗や百済は隋や唐・新羅に攻められて滅びている。
 - ・ 大化の改新では、兵役として九州の守りにつくことがあった。
 - ・ 隋や唐は皇帝を中心とした政治を行っていた。
 - ・ 日本は遣隋使や遣唐使を中国に送って、中国といい関係を築いている。

☆つなぐ力②：関係付けるすべを用いて、これまでの学習で得た知識（既有事項）を想起しながら、学習問題の解決につながる情報（状況や立場、事実など）を見いだす力

ここから本時

このように働きかけると【働き掛け3-①】

- 説明「資料で調べて分かったことや考えたことを付箋紙に書きましたね」
- ・ 発問「付箋紙を基にすると、学習問題についてどんなストーリーが考えられそうですか」
- ・ 指示「これからこのストーリーマップを各班に配ります。ストーリーの結末は『天皇を中心とした国づくりをしようとした』です。付箋を貼りながら班で話し合っ、学習問題についてストーリーを考えましょう」
 - ※ 各班にストーリーマップとプロッキーを配付する。
 - ※ 補助発問：「比べたりつなげたりしたときは、矢印を書いていきましょう。また、矢印の意味を言葉で書きましょう」
 - ※ 補助発問：机間巡視をして、「なぜそのように考えたのか」「どのようなことが考えられそうか」と問う。
- ・ 指示「ストーリーができあがってきたら、ワークシートの自分の考え②に書きましょう」
 - ※ 机間巡視をして、国内の状況と中国・朝鮮の状況とをつなぎ合わせて結末までのストーリーを考えていたら、次の働き掛けを行う。

このようになり (G3-①)

- 付箋紙に書いたこと（情報）を基に、班で学習問題についてのストーリーを考える。
 - ・ 豪族が争ったり権力をもったりした。そうすると、国の政治が乱れて国が弱くなってしまふ。
 - ・ 隋や唐はとて大きくて強い国で、高句麗や百済は攻められて滅ぼされた。
 - ・ 急いで国を強くしなければいけない。豪族同士で争っている場合じゃない。だから、隋や唐の文化や政治の仕組みを学んで、強い国になって仲良くしようと、遣隋使や遣唐使を送った。
 - ・ 日本にも隋や唐が攻めてくるかもしれない。だから、いざというときのために九州の守りを固めた。
 - ・ 隋や唐が皇帝を中心にした国づくりをしていた。だから、日本は天皇を中心にした国づくりをしようとした。そして、天皇の力を強くして、隋や唐に認めてもらおうとした。
 - ・ 隋や唐が大きくて強い国だった。だから、聖徳太子も大化の改新でも天皇を中心とした強い国づくりをしようとした。

☆つなぐ力③：関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる複数の情報を結び付け、事象の意味（課題解決に必要な情報）を考える力

このように働きかけると【働き掛け3-②】

- 発問「一体なぜ、天皇を中心とした国づくりをわざわざ行ったのでしょうか」
- ・ 指示「ここからはみんなで話し合ひましょう」
- ・ 発問「どうしてそう考えた（言える）のですか」
 - ※ 発表された考えを全体のマップに記述する。
 - ※ 補助発問：「～さんは、このことをつなげて考えたのですね」
「みなさんは～さんの考えに納得ですか」
- ・ 説明「みんなの考えはこれでいいですか」

このようになり (G3-②)

- 全体で学習問題について話し合ひ、結論を考える。
 - ・ 豪族が争ったり、自分勝手に政治をしたりしていたら、国が弱くなって隋や唐に攻め滅ぼされるかもしれなかった。だから隋や唐に学んで天皇を中心とした強い国をつくらうとしたのではないか。

・でも、自分たちの考えだから、まだ本当かどうか分からない。確かめたい。
☆つなぐ力③：関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる複数の情報を結び付け、事象の意味（課題解決に必要な情報）を考える力

このように働きかけると【働き掛け4】

- 説明「考えを確かめる資料がほしいんだね。そう言うと思って今日はもう一つ資料を用意しました。調べてみましょう」
 - ※ 資料④を配付する。
- ・説明「確かめることはできましたか。それでは、最後に今日の学習のまとめとして、学習問題について分かったこと・考えたこと・思ったことをワークシートに書きましょう」

このようになる (Gn)

- 自分たちが考えた結論の妥当性を確かめ、学習のまとめを記述する。
 - ・豪族が争ったり、自分勝手に政治をしたりしていたら、国が弱くなって隋や唐に攻め滅ぼされるかもしれない。だから隋や唐に学んで天皇を中心とした強い国をつくろうとしたんだ。この時代になぜ、わざわざ天皇を中心とした国をつくろうとしたのかが分かってよかった。

このように働きかけると【働き掛け5】

- 説明「今日の宿題としてスーパー社会科日記を書いてきましょう」
 - ・指示「いつものように、①どのように何を学んだのかと、②考え方のコツを必ず書きましょう」

このようになる (G5)

- 学習を振り返り、学習したことと自分の思考を自覚する。
 - ・比べて・つなげて・まとめて考えて、なぜ天皇を中心とした国づくりをしようとしたのか（学習問題についての答え）が分かった。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な学習内容」を創り出すことができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、_____のように、国内の状況と中国（隋や唐）の状況に関係付けて天皇を中心とした国づくりをしたことの意味をとらえているかどうかを、ワークシートの記述や「スーパー社会科日記」から検証する。
- ② 働き掛け3を受けて、_____のように、関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる複数の情報を結び付け、事象の意味（課題解決に必要な情報）を考えることができたかどうかを、発言やストーリーマップ、ワークシートの記述から検証する。
- ③ 働き掛け5を受けて、想定した①～③のいずれかの「学びをつなぐ力」を自覚しているかどうかを「スーパー社会科日記」の記述から検証する。

※上記①②③全ての検証を通過したら、表れありと判断する。